

北海道駒ヶ岳

1 概況（平成14年8月）

地震増加や火山性微動はなく静穏に経過しました。噴煙活動も弱く地殻変動にも特別な変化は認められませんが、今年 2 月～3 月には地震がやや増加し、7 月には山体のやや深いところを震源とする地震により森町姫川で震度 1 を観測したこともあり、今後も火山活動の推移を注目する必要があります。

2 嗜煙活動の状況

遠望カメラでは昭和4年火口の噴煙は観測されず、噴煙活動は低いレベルが続いています。

3 火口・地熱地帯の状況

8月26日に調査観測を実施しました。昭和4年火口をはじめ所々で弱い噴気活動が続いていますが、その状況に特別な変化はなく熱活動が活発化する兆候は認められません。

【昭和4年火口】

火口内の 96 年主火口および火口内西側で弱い噴気活動が続いていますが、噴気音や臭いは認められませんでした。北側約 130m の地点から赤外放射温度計*で測定した火口の温度は 34 で、今年 6 月(43)と同程度でした。また、同地点からの赤外熱映像装置**の観測では昨年 5 月の観測と比べ、96 年主火口および火口西側の噴気地帯には変化はありませんでしたが、火口南西側の帯状にのびた地熱域は面積が小さくなり、温度も低下しました。

【96 年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列南端の最も活発なF 13 噴気孔では、弱い噴気音を伴って火山ガスを噴出しています。噴気孔周辺には鮮明な硫黄昇華物が付着しています。噴気孔の温度は92 で、今年6月(88)と同程度でした。

【その他の火口】

大亀裂の中央（通称明治火口）や瓢形火口などで弱い噴気活動が続いています。

* 赤外放射温度計

物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器。熱源から離れた所から温度を測定できるが、噴煙などではっきり対象が見えない場合や熱源から離れると温度が低く表示されるなど、値は測定条件によって変わり実際の温度とは必ずしも一致しない。

* * 赤外熱映像装置

赤外放射温度計と同様の原理で温度を面的に捉える遠隔測定装置。火山では地熱分布等を把握するために利用される。値は測定条件や距離によって変わり、実際の温度とは必ずしも一致しない。

4 地震活動の状況

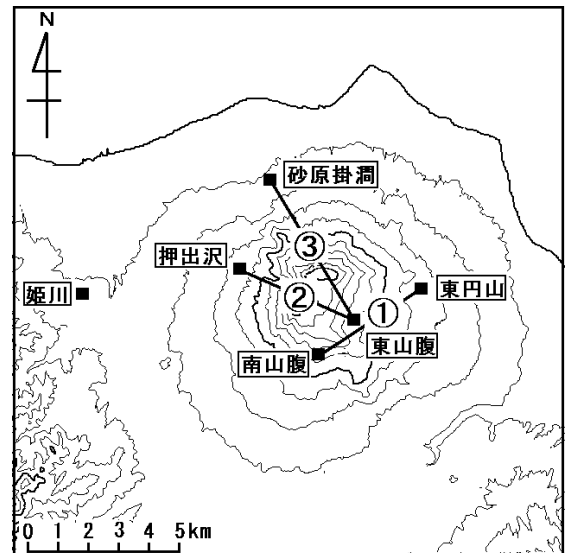
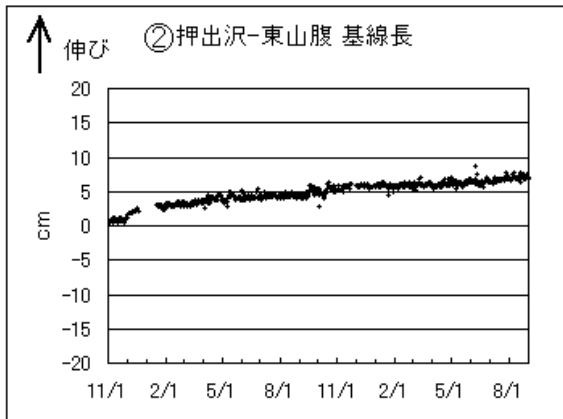
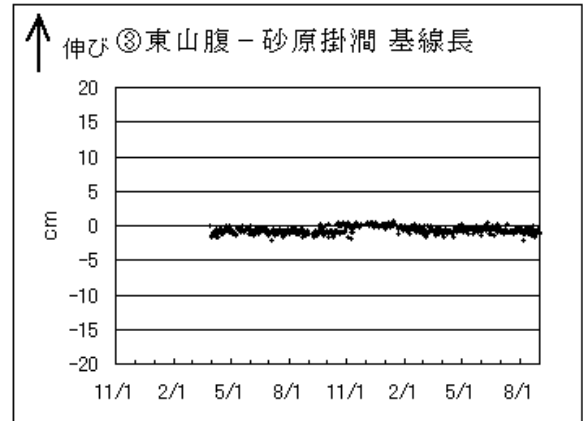
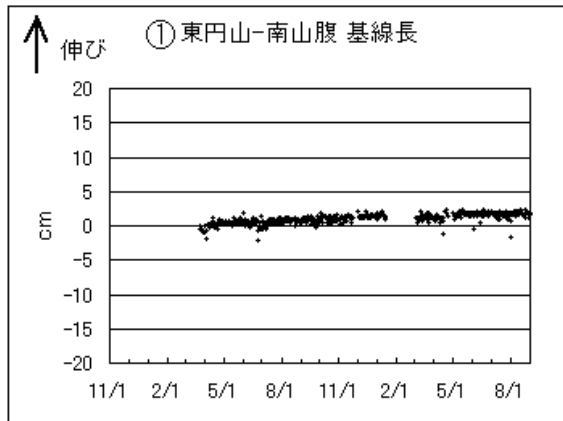
地震は22日に1回発生しただけでした。震源は北東山麓のやや深いところと推定されます。今年の2月以降山麓のやや深いところを震源とする地震が散発していることから、今後の推移を見守る必要があります。火山性微動は観測されませんでした。

月別地震・微動回数（A点）

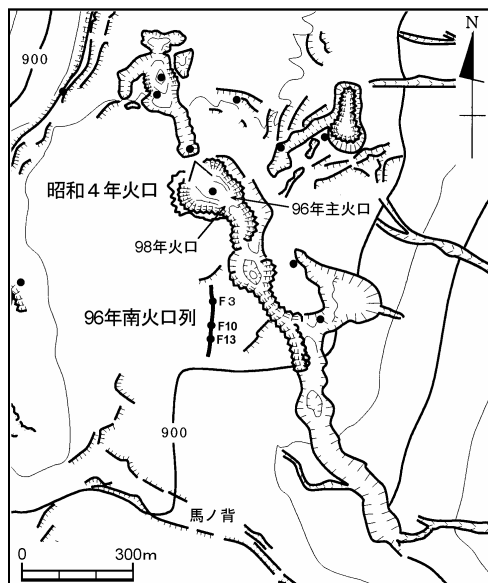
[illegible]

5 地殻変動の状況

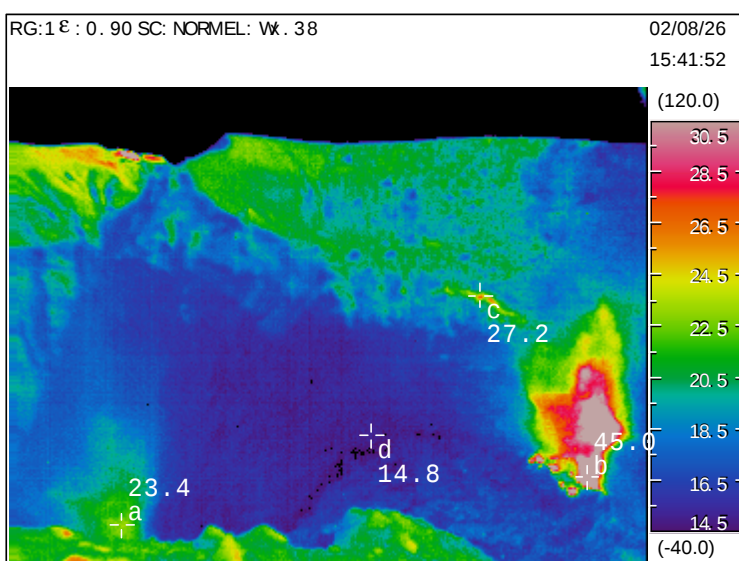
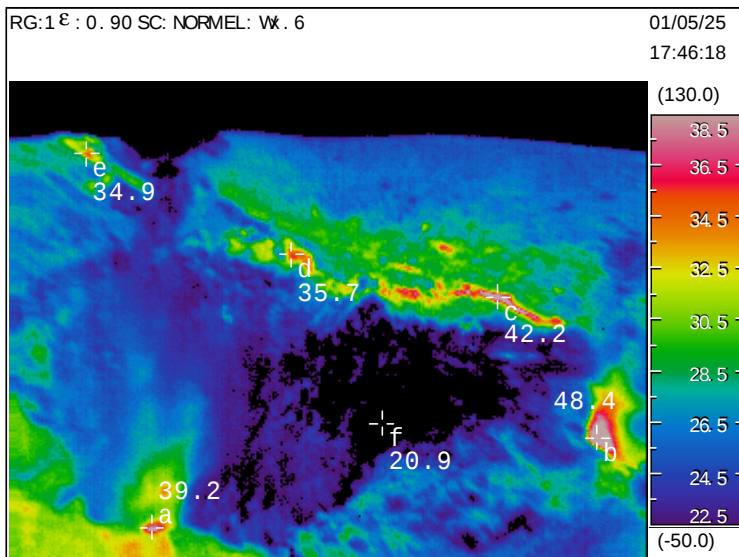
G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。なお、押出沢 - 東山腹の基線長グラフに見られるわずかな伸びの傾向は、押出沢観測点の局所的な動きと推定されるため、現在その原因について調査中です。



北海道駒ヶ岳基線長グラフ（2000年11月1日～2002年8月31日）

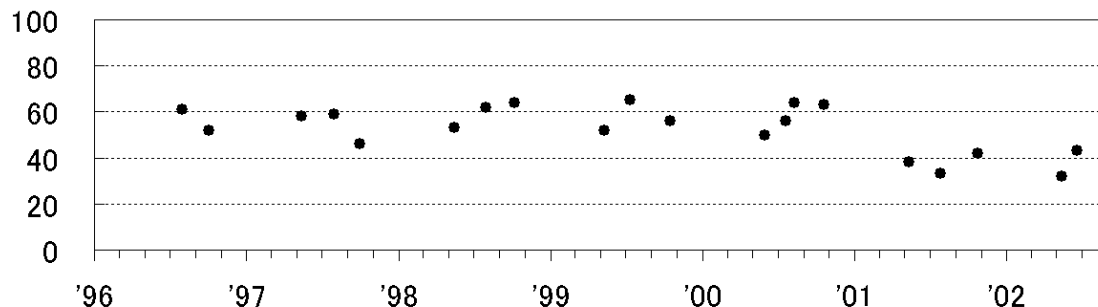


駒ヶ岳山頂火口原周辺図（の印は赤外熱映像装置の測定位置を示す）

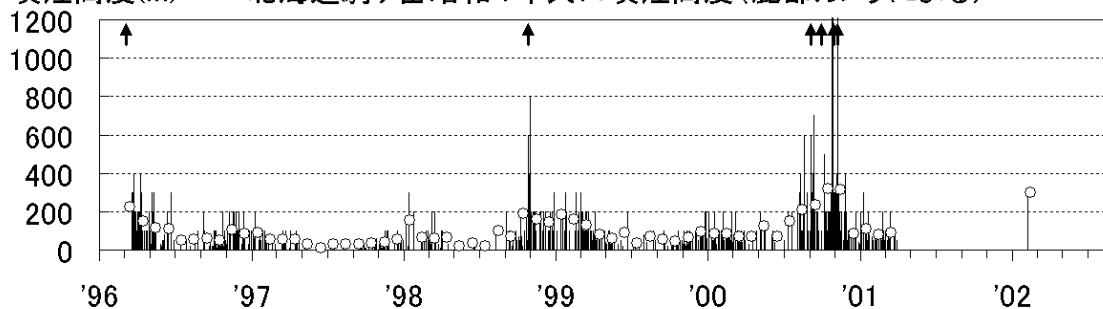


北側から見た昭和4年火口内（上段の写真は2001年5月25日撮影）
 中段：熱映像2001年5月25日17時46分（天気薄曇り、気温不明）
 下段：熱映像2002年8月26日15時41分（天気晴れ、気温18℃）

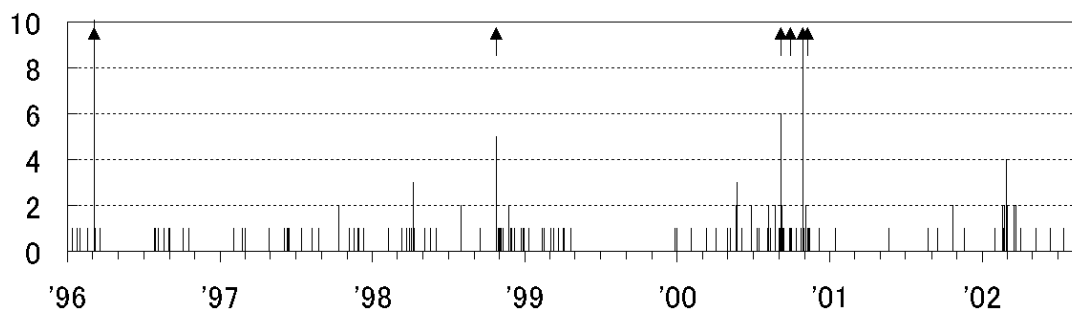
温度(°C) 北海道駒ヶ岳昭和4年火口温度(赤外放射温度計による)



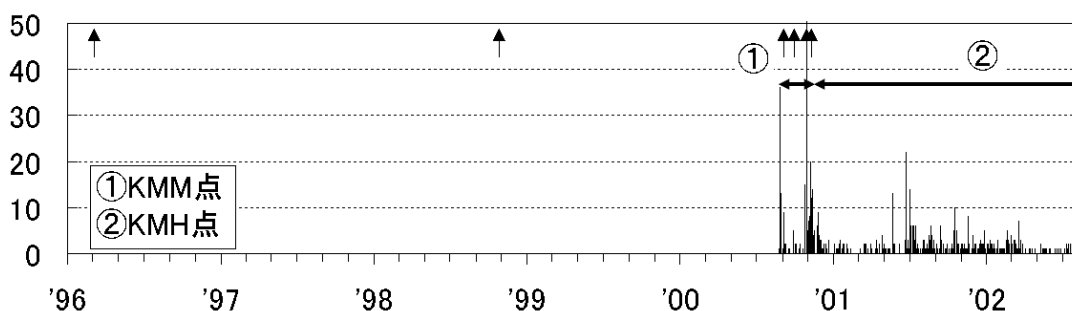
噴煙高度(m) 北海道駒ヶ岳昭和4年火口噴煙高度(鹿部カメラによる)



日別回数 北海道駒ヶ岳日別地震回数



日別回数 北海道駒ヶ岳山頂臨時点の地震回数



北海道駒ヶ岳火山活動経過図(1996年1月1日～2002年8月31日) ↑印は噴火